

2026SF 中部空手道選手権大会 ご挨拶

中部空手道選手権大会の開催にあたり、選手の皆さん、そして日頃から選手たちを支え、温かく見守ってくださっている保護者・ご家族の皆さま、応援してくださる皆さまへ、心より感謝申し上げます。

選手の皆さんは、この大会に向けて、それぞれが自分なりに稽古を重ね、今日を迎えたことと思います。

今、楽しみな気持ちでいっぱいの人もいれば、不安や緊張を感じている人もいることでしょう。

大会では、嬉しい思いをすることもあれば、悔しい思いをすることもあります。ですが、そのどちらも、真剣に挑戦した人だけが得られる大切な経験です。今日ここに集まった皆さんが、この大会を通して、自分自身の努力や挑戦の意味を感じ、それぞれの成長につながる時間を過ごしてくれることを願っています。

私たちは、大会という場所も一つの大きな「道場」だと思っています。

選手だけが学ぶ場所ではありません。

応援する人も、審判も、指導者も、運営する人も、みんなで一緒に大会をつくっています。

だからこそ今日という一日が、「勝った」「負けた」だけではなく、

思い切って挑戦できた

喜びも悔しさも、周りの人と分かち合えた

感謝の心をもって、礼を大切にできた

最後まで頑張れた

そんな「よい経験」が、選手だけでなく、見守る人たちの心にも残る一日になることを願っています。

私たち大会運営スタッフは、日々「どうすれば皆さんにとって、よりよい大会になるか」を一生懸命に考えています。その中で今回、審判長を務める新川将成審判長は、ルールの方から、「選手の皆さんが安心して挑戦できる大会にしたい」という思いを話してくださいました。

試合では、技術や気持ちだけでなく、「ルールを理解していること」も大切な力になります。ルールを知ること、選手は落ち着いて試合に臨むことができ、保護者や応援者の皆さまも、より安心して大会を見守ることができると考えています。

そこで、疑問に思うかもしれない点を審判長に考えてもらい、少しでも解説をしたいと思います。選手の皆さん、保護者や応援者の皆さまの一助になれば幸いです。

あれ!ポイントになってないの?!

空手道の試合では、「なぜ今のはポイントにならないの?」「どうして反則にならないの?」と感じる場面があるかもしれません。

本大会では、主審 1 名・副審 3 名による《三審制》で試合を行います。審判員は、皆さんが日々積み重ねてきた努力や技を、できる限り見逃さないよう真剣に試合を見えています。しかし、空手道の試合は、選手同士が激しく動き合う競技です。立ち位置やタイミングによって、一瞬見えなくなってしまう場面もあります。

そのため審判は、「実際に確認できたもの」を大切にしながら、公平に判定を行っています。見えていない攻撃を、雰囲気や勢いだけでポイントや反則と判断してしまえば、判定そのものへの信頼が失われてしまうからです。

これは人の目だけの問題ではなく、映像や機械による判定でも同じです。どのような判定であっても、「確認できた事実」をもとに判断することが、公平性につながります。

本大会では、そうした見落としをできる限り減らすために、複数の審判がそれぞれ違う角度から試合を見えています。

ポイントや反則について、審判の判断が分かれることがあるのは、それぞれの位置から確認できた事実をもとに、公平な判定を行っているためです。

「反則=相手の得点」ではありません

空手道では、互いを傷つけ合うことではなく、安全を守りながら技を競い合うことを大切にしています。そのため反則は、危険な行為や公平性を損なう行為を防ぐために設けられています。

本大会では、反則があった場合は「反則 1」、さらに反則を繰り返した場合は「反則 2」となり、その時点で反則負けとなります。

なお、反則によって相手選手にポイントが加算されることはありません。

たくさん攻撃を当てたのに

空手道の試合では、すべての攻撃が同じようにポイントになるわけではありません。下段攻撃は、相手の動きを止めたり、崩したりすることができる奥の深い技術です。一方で、中段や上段への攻撃と比べると当てやすい面があることも事実です。

そのため本大会では、より多彩な技による攻防を大切に考える考え方から、下段攻撃は認められているものの、ポイントとしては扱っていません。

ただし、下段攻撃によって相手がダウンした場合は、その時点までのポイント差に関係なく勝つことができます。

これは、下段攻撃もまた、試合の流れを大きく変える重要な技術だからです。

こうしたルールは、選手を縛るためのものではありません。
選手が安全に、そして公平に力を発揮するためにあるものです。

新川将成審判長をはじめ、審判団は、ただ勝敗を決めるだけではなく、「選手たちが安心して挑戦できる場を守る」という気持ちで、一試合一試合に向き合っています。

だからこそ選手の皆さんには、判定だけに気持ちを向けすぎず、

「今できる自分の空手を出し切ること」

「最後まで堂々と戦うこと」

を大切にしてほしいと思います。

保護者・応援者の皆さまにも、ぜひ温かい応援をお願いいたします。
選手は、応援してくれる人の声や表情から、大きな力をもらっています。

うまくいった時だけでなく、悔しい結果だった時にも、今日ここまで頑張ってきた努力を認め、支えていただけたら幸いです。

今日という一日が、参加された皆さまにとって、「また頑張りたい」「空手を続けてよかった」
そう思えるような、勝敗を超えた、温かく実りある大会になることを心より願っています。

2026SF 中部空手道選手権大会
大会会長 平野 泰斗
審判長 新川 将成